

吼 洋 寮 逍 遥 歌

作詞 塩田信雄 (専金22)
作曲 塩田信雄 (専金22)
採譜 宮沢信夫 (学機37)

♩ = 72 ゆっくり

あかつきかけて におうなる さくらはは なにものふが
からあいあかく えんねつに しゃくねつひ とを うますとも

ひそかにこめし おもいこそん わがわこうどの こころなれ
われらがじちを いかにせん かがくのきよほを あゆむのみ

ごじょうろう はるのつき きよきかな そのひかり
おうせはま なつのよは ともになけ ひとつのよ

吼 洋 寮 逍 遥 歌

塩田信雄

作詞
編曲

一、あかつき 曉かけて句うなる

ひそかにこめし想いこそ

五城樓春の月

櫻の花に武士が
我若人の心なれ
清きかなその光

二、からあひ 鶏頭赤く炎熱に

吾等が自治を如何にせん

会瀬浜夏の夜は

灼熱人を倦ますとも
科學の巨歩を進むのみ
共に泣け人の世を

三、しゆうてんやま 秋天山は紅葉して

濁れる浮世逃れ来て

星深く永久の世に

漁火影を沈むとも
思索の跡を尋ぬべし
真理こそ伝うなれ

四、とよ 響める野分に木枯せし

かくれし悩み注ぐなり

望洋の健児吾れ

木草も生の営みに
歓喜は常に苦難あり
救わなん國民を